

## 愛知大学特別重点研究 「スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究」について

戸田 敏行

本センターで実施した愛知大学特別重点研究「スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究」の概要を記し、個別研究の導入とする。

### 愛知大学特別重点研究

愛知大学特別重点研究とは、外部資金によるプロジェクト研究等への申請を視野に、本学において戦略的研究を含むグローバルな研究課題やローカルな研究課題、学際的な研究課題、喫緊の今日の研究課題等について共同で行う研究であり、本研究は同制度を用いて実施した。

### 研究目的

我が国では2015年8月に閣議決定された国土形成計画において、リニア中央新幹線によって結ばれる東京・名古屋・大阪圏をスーパー・メガリージョン（以下、S/M）と呼び、世界最大の都市圏構想として、国土計画の主要戦略にしている。特に、リニア中央新幹線の第1期となる品川・名古屋間は2027年開通を目的としており、名古屋駅周辺の開発が進展している。

S/M構想については、行政や経済界における検討が進んでいる。また本学は、S/M構想によって大きな変化がもたらされる名古屋駅に近接した笹島地区に名古屋校舎、名古屋都市圏の縁辺部であり非大都市圏である三遠南信地域に豊橋校舎を有しており、S/M構想の影響を受けることが予測され、実証的な検討を行う好条件を備えている（図1）。



図1 スーパー・メガリージョンと愛知大学

そこで、本研究は「スーパー・メガリージョン形成に関する実証的研究」と題し、S/M構想によって大きな変化が予測される名古屋都市圏を主たる対象として、以下の点を明らかにしてきた。

- ①S/M構想による名古屋都市圏を取り巻く国土計画的変容(1.スーパー・メガリージョンの国土計画的変容)
- ②名古屋都市圏の都心拠点地区エリアマネジメントとして笹島地区の地域計画的展開（2.都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開）
- ③名古屋都市圏の縁辺部でありS/Mの大都市圏中間地域である三遠南信地域の地域計画的展開（3.大都市圏中間地域の地域計画的展開）

以上から、名古屋都市圏にとって主体的なS/M形成に関する政策的視点を構築することを主目的とする。また本学は、主目的の②および③の地域計画的展開に主体的な役割を担っている。そこで、副次的な目的として、本研究から発展した文部科学省私立大学研究ブランディング事業等の競争的経費を活用し、S/M構想における名古屋都市圏の担い手である機関として有すべき新たな大学機能について検討を行った。

### 各研究テーマ概要

本研究の研究テーマは大きく3つに分かれている（表1）。

「1.スーパー・メガリージョンの国土計画的変容」では、スーパー・メガリージョンの全体像を、まず「1-1国土形成と変化要因」として、「1-1-1国土計画の変遷」を概観し、リニア中央新幹線による影響が見込まれる「1-1-2東海道新幹線と東海道都市開発」の検討、リニア中央新幹線によって大学等研究機能の連携（ナレッジリンク）が国土形成計画で構想されるため、その可能性を「1-1-3拠点地区連携」で分析した。次に、「1-2海外事例比較」では、「1-2-1海外大都市圏比較」で中国を中心とする海外メガリージョンの動向について検討し、「1-2-2越境ツーリズムの変動力学とそのガバナンス」では海外ツーリズムの観点からそのガバナンスについて論じた。次に、広域的な地域形成を行う

ために「1-3広域行政の適応」として、自治体の水平補完可能な政策分野と効果発現可能性を検討した。また、「1-4中部産業構造の転換と企業立地」では、自動車産業を軸に中部圏の産業構造変化と名古屋駅周辺地域での企業立地についてまとめた。最後に「1-5国土計画と大学機能」では、地方都市圏を支える大学機能として本学卒業生の集積に着目した分析を行った。

「2.都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開」では、笹島地区エリアマネジメントと笹島地区に影響を及ぼす名古屋都市圏について分析した。まず、「2-1大学を核とするエリアマネジメント」として、「2-1-1エリアマネジメント計画」で先行事例の検討と笹島地区に適応する際の留意点を抽出し、「2-1-2都市形成と拠点地区の役割」で笹島地区に関連する周辺プロジェクトを踏まえた展開を検討した。また、エリアマネジメントに大学の果たす役割として「2-1-3地域実践教育の方法論の研究」について検討した。次に、名古屋都市圏から笹島地区の位置づけを

明らかにするために、ミクロ地域動向としてGIS分析によって「2-2名古屋駅周辺地域の空間構造」の特性を明らかにし、マクロ地域動向として企業活動の観点から「2-3名古屋圏の企業持続性」、地理学的な観点から「2-4名古屋圏の広域構造」を明らかにした。

「3.大都市圏中間地域の地域計画的展開」では、三遠南信地域を対象として、「3-1三遠南信の広域構造」を地理的データから明らかにした（本項目は三遠南信センター・拠点事業として実施）。次に、スーパー・メガリージョンの進展によって変化が見込まれる「3-2中山間地の機能」および、リニア中央新幹線によって都市機能低下が懸念される東海道の都市集積強化の方法として「3-3豊橋都心拠点エリアマネジメント」と、県境を越えた都市連携である「3-4豊橋・浜松の越境都市構造」について検討した。また自治体の対応として、平成の合併によって都市部から山間部を有するに至った浜松市を対象とした「3-5広域合併都市の形成」について検討を行った。

表 1 個別研究テーマ一覧

研究テーマ	個別研究テーマ		担当
1. スーパー・メガリージョンの国土計画的変容	1-1 国土形成と変化要因	1-1-1 国土計画の変遷	高橋大輔(東三河地域研究センター)、鈴木伴季(東三河地域研究センター)、戸田敏行(地域政策学部)
		1-1-2 東海道新幹線と東海道都市開発	
		1-1-3 拠点地区連携	戸田敏行(地域政策学部)、鈴木伴季(東三河地域研究センター)
	1-2 海外事例比較	1-2-1 海外大都市圏比較	暁敏(内蒙古大学)
		1-2-2 越境ツーリズムの変動力学とそのガバナンス	加治宏基(現代中国学部)
	1-3 広域行政の適応		入江谷子(法学部)
	1-4 中部産業構造の転換と企業立地		蔣湧(地域政策学部)
1-5 国土計画と大学機能		鈴木伴季(東三河地域研究センター)、戸田敏行(地域政策学部)	
2. 都心拠点地区エリアマネジメントの地域計画的展開	2-1 大学を核とするエリアマネジメント	2-1-1 エリアマネジメント計画	内山志保(三遠南信地域連携研究センター)、戸田敏行(地域政策学部)、永柳宏(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)、吉本理沙(経営学部)、黒田昌義(内閣府)
		2-1-2 都市形成と拠点地区の役割	
		2-1-3 地域実践教育の方法論の研究	
	2-2 名古屋駅周辺地域の空間構造		蔣湧(地域政策学部)
	2-3 名古屋圏の企業持続性		打田委千弘(経済学部)
2-4 名古屋圏の広域構造		神頭広好(経営学部)、竹内啓仁(日本福祉大学)、駒木伸比古(地域政策学部)	
3. 大都市圏中間地域の地域計画的展開	3-1 三遠南信の広域構造		駒木伸比古(地域政策学部)、村山徹(名古屋経済大学)
	3-2 中山間地の機能		岩崎正弥(地域政策学部)、黍嶋久好(三遠南信地域連携研究センター)
	3-3 豊橋都心拠点エリアマネジメント		駒木伸比古(地域政策学部)
	3-4 豊橋・浜松の越境都市構造		蔣湧(地域政策学部)、戸田敏行(地域政策学部)、加藤勝敏(東三河地域研究センター)
	3-5 広域合併都市の形成		鄭智允(地域政策学部)、堀内匠(地方自治総合研究所)